研究事業名

新町弥生人の形質・文化・復顔に関する研究

研究者名

舟橋京子（准教授／九州大学比較社会文化研究院　・九州大学アジア埋蔵文化財研究センター）

研究協力者名

川久保善智（助教／佐賀大学医学部医学科生体構造機能学講座）

米元史織（助教／九州大学総合研究博物館・九州大学アジア埋蔵文化財研究センター）

研究期間

2023年6月1日－2024年3月31日

研究計画の内容

新町支石墓群は大正時代に九州大学医学部教授であった中山平次郎氏によって考古学界に紹介され広く知られるようになった。1986年には初めての本格的な発掘調査が行われ、弥生時代早期の支石墓と人骨が出土したことで注目を集めた。大陸や朝鮮半島との交流の証となる支石墓が発見され、同時に人骨が良好な状態で出土したことから日本列島における弥生時代のはじまりを知る上で重要な手がかりとなる遺跡と評価され、平成12年には国の史跡に指定された。

この新町支石墓群の発掘調査成果については報告書（志摩町教育委員会『新町遺跡』志摩町文化財調査報告書第7集、1987年）が刊行されている。同書の中では遺構や出土遺物の報告に加え、出土人骨の計測や分析結果についても触れられており、新町弥生人の形質やルーツ・文化を考える上での基礎資料となっている。ただし、人骨形態および人骨から観察可能な儀礼・習俗に関しては発掘調査時の見解のままで詳細な検討が行われていない。したがって、人骨そのものの再整理・観察・計測およびデータの分析と、それらを基礎とした最新研究が待たれる状況にある。

加えて、現在糸島市によって進められている新町支石墓群の整備にあたっては人骨の再調査と最新の研究を実施し、糸島市の史跡整備事業に参画し展示品や解説パネル等にその内容を反映させることで、その研究成果を市民をはじめとする来場者へ還元したいと考えている。また、出土人骨に肉付けした「復顔」を作成することで、整備のテーマである「顔の見える展示」を実現し、新町支石墓群のシンボルとして遺跡のPRやひいては糸島市全体のPR活動に活用できるようにして行きたいと考えている。

研究成果

① **出土状況の再確認：**新町遺跡発掘当時に作成・撮影された出土人骨図および写真・動画の確認・再検討（主担当：舟橋）。

作業においては糸島市地域振興部　文化課　博物館／文化財係の平尾和久氏をはじめとする糸島市職員各位にご協力いただいた。

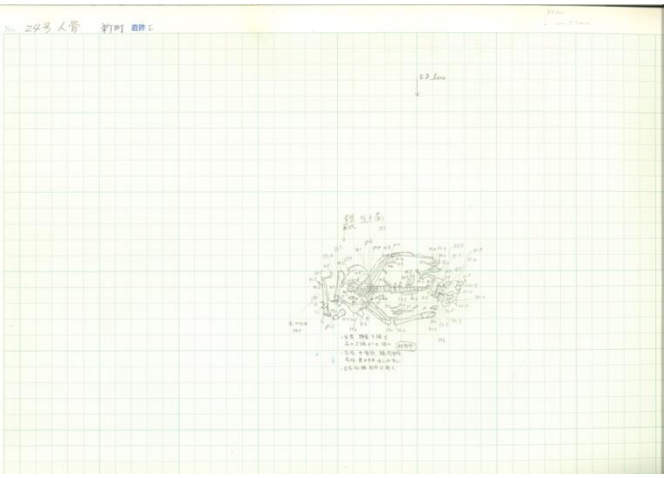

図１再検討を行った個体の一例（新町遺跡24号墓）

② **形質**：新町遺跡出土人骨の四肢骨および受傷人骨の３D化（主担当：米元）

これまでほとんど検討されてこなかった新町遺跡出土人骨の四肢骨に関して、３D情報を取得した。加えて、受傷痕のある24号墓出土人骨の受傷部位の３DデータおよびCT画像の取得を行い、どのように石鏃が嵌入しているかの検討を行った。本作業で取得された３Dデータを用いた模型は事業終了後糸島市に寄贈予定である。

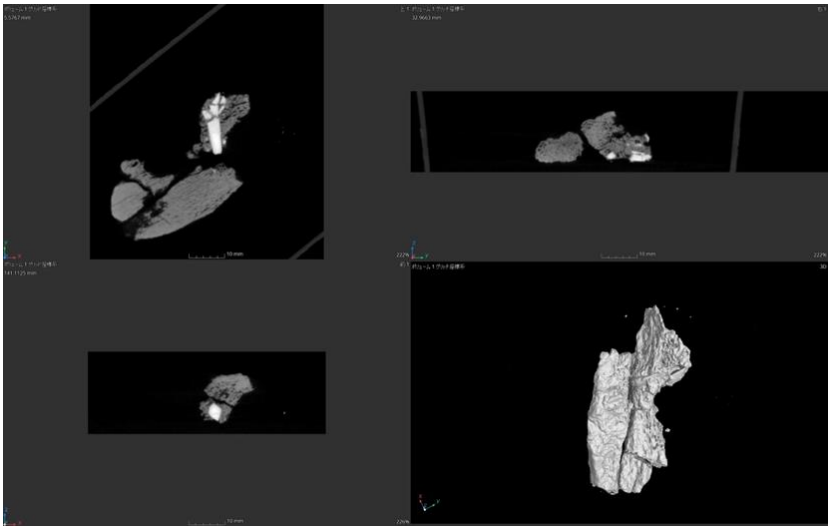

図2新町遺跡24号墓出土人骨の石鏃嵌入部位のCT像

（令和３～７年度 文部科学省 科学研究費助成事業 学術変革領域研究（A）21A102

「ゆらぎの場としての水循環システムの動態的解明による水共生学の創生」CT使用）

③ **文化**：葬送行為に関する検討（主担当：舟橋）

これまで追葬とされていた19号墓に関しては、追葬ではなく、白骨化の進んだ遺体を一次葬個体とともに埋葬した集骨・改葬事例であることが推定された。また、これまで首狩りの証左とされてきた24号墓に関しては、実際には一次埋葬の墓壙内と墓壙低の小土壙内の二か所から歯牙が出土していることが再確認され、首狩りと考えるよりも山口県土井ヶ浜遺跡などで見られる頭蓋の集骨・改葬事例の類例であることが推定された（図3）。

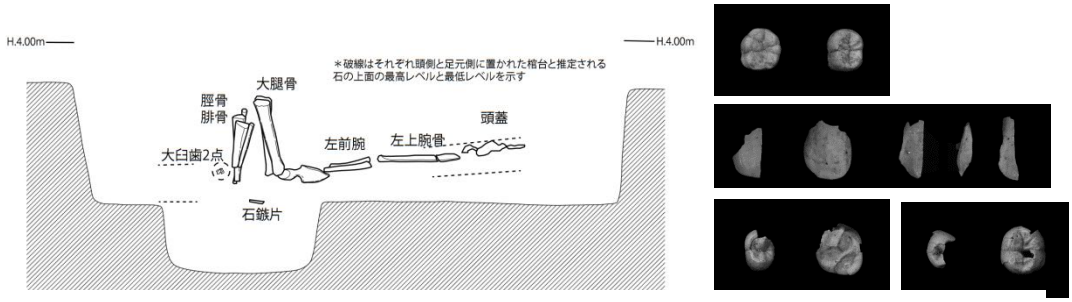

図3左：新町遺跡24号墓遺構断面および人骨出土状況見通し

右：新町遺跡24号墓別個体歯牙　1段目：足元付近出土大臼歯

2段目：小土壙内出土前歯、3段目：小土壙内出土臼歯（細片化していたものを接合後の状態）いずれも舟橋2024より引用

加加えて、昨年度の事業において、人骨の再整理の過程で、未報告であった21号墓に伴うと推定される四肢骨片が存在することが明らかになっており、後続する墓（56号墓ないしは57号墓が）を造営時に先行する墓（21号墓）を破壊した際に、埋葬されていた骨化した遺体を片付けたものと推定された。

以上の3例を総合すると、新町遺跡の中でも古い段階の墓が多いとされる墓域北半部においては、意図的ないしは偶発的に先行する墓を破壊して人骨が出土した場合、集骨し新たに埋葬する個体の墓に改葬する、という行為が行われていたと考えた。この成果は　舟橋京子，2024．新町遺跡出土人骨に見られる葬送行為の再検討．東アジア考古学の新たなる地平．宮本一夫教授退職記念事業会，福岡．に論文として投稿を行った。

④ **復顔**：新町遺跡9号墓出土人骨の復顔を行った（主担当：川久保）。

復顔に関しては、昨年度までにランドマークを作成した状態から作業が進展し、咀嚼筋・表情筋の作成が行われている。加えて、その後の皮膚形成のためのシュミレーションを行っている（図4）。

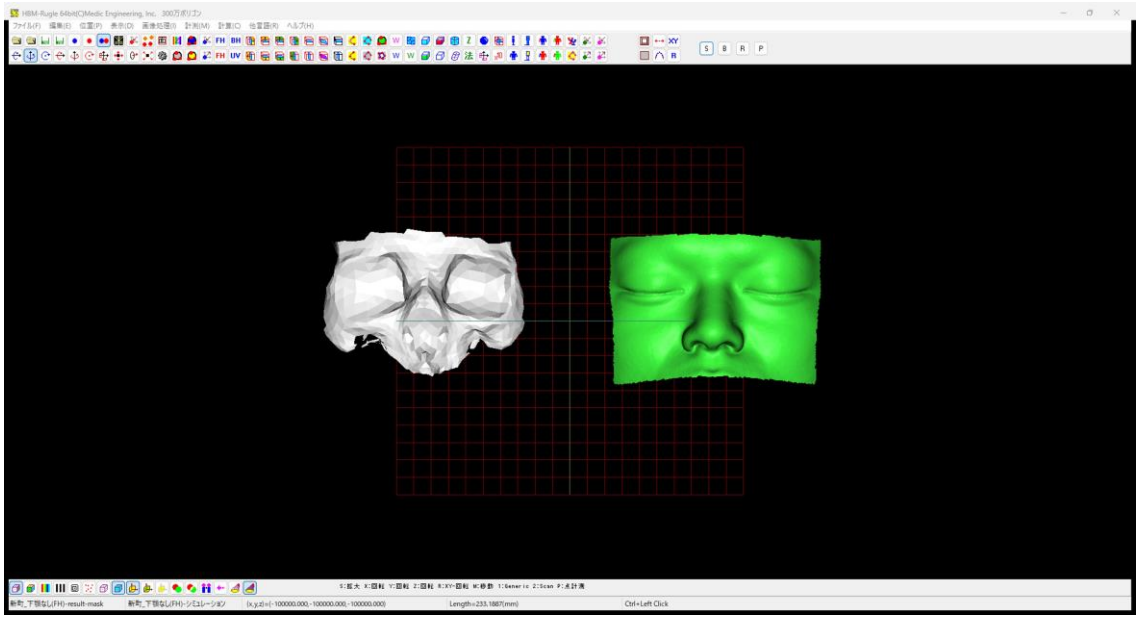

図4新町遺跡9号墓出土人骨の復顔シュミレーション

（川久保氏提供）